

《短報》

山口県山口市で採集したキワタゲテングタケ

岩本みさき

豊田ホタルの里ミュージアム・サポーター会員，〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

はじめに

キワタゲテングタケ *Amanita flavofloccosa* Nagasawa & Hongo (ハラタケ目：テングタケ科) は、子実体が黄色い粉をまとっている菌(きのこ)類で、主に照葉樹林や草地上に発生する珍しい種である(帆足, 2002)。

山口県からはこれまで山口市鋤先山(川口, 2016)でのみ確認されており、本報告が2例目となる。そこで、本報告では本種について採集記録と若干の生育状況を報告する。

生息地の環境と確認状況

キワタゲテングタケは山口市木戸公園で、2024年9月28日に遊歩道付近の倒木や落ち葉が溜まった場所に2本の基部が繋がった状態で4本程度発生していた(図1)。この場所は一年ほど前から観察しており、他のきのこ類が発生しているのは確認していたが、本種については今回が初めてだった。



図1. キワタゲテングタケの発生状況
1-2. 発生状況；3. 発生環境(発生位置を赤矢印で示す)。

確認した4本はいずれもカサが開いていない状態で、その内2本は根元をカタツムリに食べられていた(図2)。残りの2本は綺麗だったので家に持ち帰り、成長状況を観察した。

観察した結果、ほとんどの特徴は参考にした文献(帆足, 2002; 西納, 2022など)と一致していたが、異なる点がいくつかあった。1) 本種の発生時期について西納(2022)では「7月中旬」、帆足(2002)では6月10日採集と記載されていたが、筆者が発生を確認したのは9月下旬だった。2) ひだの色とツバの付き方が帆足(2002)では「ひだは淡紅色を帯びる」、「ツバより上部には浅い縦線があり」と記載されていたが、筆者には「ひだは白から淡黄色」、「ツバは柄の最上部にあり、ツバそのものに浅い縦線がある」と感じた(図3)。3) 匂いについて城川(1995)では「吐き気を催す強い臭気」、帆足(2002)では「筍の匂いを強くしたような匂い」と表現しているが、筆者には「プラスチック製品のような匂い」に感じた。



図2. カタツムリに捕食されるキワタゲテングタケ
※赤矢印でカタツムリを示す。

キワタゲテングタケの成長状況

本種を確認した9月28日に幼菌を土ごと持ち帰り、スマートフォンを用いてタイムラプスでその成長を撮影した。成長過程は次のように進行した。

撮影を開始した9月28日は、10時20分から18時00分頃までは柄が少し伸びた程度で、変化は見られなかった。そして、再び撮影を開始した同日18時10分から夜の間はほとんど変化が見られなかった。

翌日の9月29日5時00分頃からカサが膨らみ始めて、15時00分頃からは一気にカサが開いていった。同日18時30分頃にはカサが完全に開いた。途中、乾燥していたのでスポイトで水をかけると、粉が水を弾き、舞った。

まとめ

初めて本種を確認したとき、これまで観察したきのこ類とは異なり粉に覆われていて異様な姿と思った。しかし、観察する中であの粉は、水に濡れて腐ってしまわないように撥水する粉だと思った。

今後もこの遊歩道付近での観察を継続していきたい。



図3. キワタゲテングタケ子実体の形態
1-2. カサ; 3. 断面 (内部は中実で繊維質)。

謝 辞

本種の同定確認と有益な情報をご教示頂いた折原貴道氏 (神奈川県立生命の星・地球博物館) に御礼申し上げます。

引用文献

- 帆足美伸 (2002) 福岡県で採集された *Amanita* 属の稀菌 2 種について. 日菌報, **43**: 71-73.
西納由美 (2022) 初めて見たきのこ - 黄色い綿毛におおわれて -. 関西菌類談話会会報, **46**: 2-6.
川口泰史 (2016) 山口県産きのこ類の採集・確認目録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (8): 21-163.
城川四郎 (1995) 「きのこ狩りを楽しむ本」 95pp., 学習研究社, 東京.